

今年も読書週間（10/27～11/9）がはじまります！

# 読書クイズにこたえてプレゼントをもらおう！

これは、「読書の秋」にぜひ読んでもらいたい  
本(物語)の紹介リストです。

本の紹介のところに読書クイズがあるので、本を

読んで答えを書いてしらさわ夢図書館にもつくと、

お楽しみプレゼントがもらえます。または、クイズにはずれても、3冊以上読めばスタンプとプレゼントがもらえます。本は、しらさわ夢図書館・各学校図書館(協賛校のみ)で展示・貸出しています。

開催期間は10月27日～12月3日までです。

さあ、楽しい本をたくさん読んで、プレゼントをもらいましょう！



(おといあわせ先) 本宮市立しらさわ夢図書館 TEL44-2112 FAX44-4284

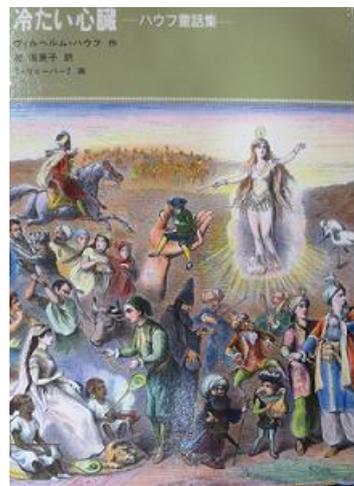
## 中学生むきの本

「隊商(「冷たい心臓—ハウフ童話集—」より)」

読

ヴィルヘルム・ハウフ：作 福音館書店

砂漠を進むある隊商(隊を組んで行き来する商人・キャラバン)にセーリム・バルフという一人の見知らぬ男がやってきました。バルフは旅の仲間となり、旅の退屈しのぎに同行する4人の商人たちと、物語を語りあうことにしました。はじめは、それぞれの知っている不思議な話が語られるだけかと思いましたが、しだいにその中にはとても重要な話が隠されていました。そして、最期には主人公とある商人の深い因縁が明らかになっていきます。



(クイズ1) 主人公セーリム・バルフの正体は何だったのでしょうか？

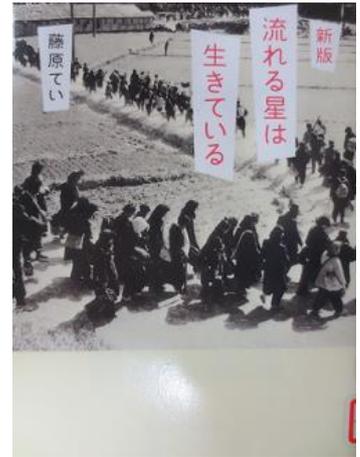
こたえ： ( )

## 「新版 流れる星は生きている」

読

藤原 てい：作 偕成社

主人公「てい」は、第二次世界大戦終戦まぎわの満州国で、観象台（日本の気象庁）に勤める夫と子どもたちと暮らしていました。ところが、昭和20年8月9日に突然ソ連軍が満州国へ侵攻してきたことにより、家族一家が日本へ引き揚げることになります。途中、夫が強制収容所へ抑留され、自らは乳飲み子と3才と6才になる3人の子どもを抱えて、1年以上にわたり飢えや病気などの苦難と闘うその生活は、想像を絶する過酷なものであり、戦争の悲惨さ・非情さをこれ以上ない迫力で伝えている渾身のノンフィクションです。



(クイズ2) 主人公「てい」のことを「こじき女」と呼んでさげすんだ天敵のあだ名は何でしょう？

こたえ：( )

## 「ベグル・チームの作戦」

読

E. L. カニクスバーグ：作 岩波書店

12歳の少年マークの所属する野球チームの監督が突然「運営上の問題」でママになってしまいました。すると、ママはリームのコーチにマークの兄スペンサーを指名してしまいます。チームの選手は指名制で、点数で選手をトレードすることができます。ママと兄は強いチームにするためよいプレイヤーの獲得に乗り出します。そうして編成したママのチーム「ベグルチーム」は大躍進してとうとう首位になり、シーズン最後の試合を迎えることとなります。しかし、ここである事件が起こります。



(クイズ3) チームの双子の選手のサイモンとシルバスターを見分ける方法は何でしょう？

こたえ：( )

## 「とぶ船」上・下

読

ヒルダ・ルイス：作 岩波書店

主人公のピーターは一人で海べの町ラディクリフへ歯医者にてかかりました。帰り道、通りかかった店で小さな船のおもちゃを有り金をはたいて買ってしまいました。帰りのバス代もなくなったピーターでしたが、ポケットに入れたおもちゃの船はどんどん大きくなり、ピーターが乗れるくらいの大きさになりました。この魔法の「とぶ船」はこの後、ピーターは自分の兄弟たちを乗せて、古代エジプトやウィリアム征服時代のイギリス、北欧の神話の世界などの時間旅行に出かけていきます。



(クイズ4) エジプトのファラオの墓にあった石棺の碑文に繰りかえし出てきたこととは何ですか？

こたえ：( )

## 「ニッポンの刑事たち」

読

小川泰平：作 講談社

元神奈川県警刑事だった著者による「本当の刑事の姿」についてのノンフィクションです。ドラマの刑事たちは、大胆な推理や単独行動でみごとに犯人をつきとめて逮捕しますが、実際の刑事たちは地道な捜査や組織で行動するのが原則ということで、イメージとは異なる刑事の仕事を知ることができます。実際に起きた事件の裏側なども紹介されており、地味ながら犯罪を憎み、正義を守る刑事たちの熱い気持ちが伝わってきます。



(クイズ5) フロアの泥棒が盗んだお金をどのように使うか？その意外な使い道とは何でしょう？

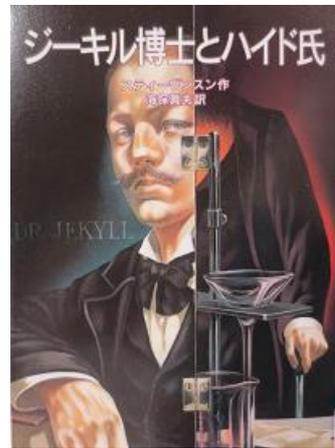
こたえ：( )

## 「ジーキル博士とハイド氏」

読

スティーヴンスン：作 岩波書店

弁護士のアスタン氏は、医学博士であるジーキル博士からひとつの遺言状を預かるが、その内容は自分の死後の財産を自分の友人で恩人でもあるハイド氏に譲るとされていました。ハイド氏はジーキル博士の家に入り出している不気味な男で、アスタン氏はその正体を暴こうとします。そんな中、ロンドン市内である老紳士を撲殺するというセンセーショナルな事件がおき、目撃者によると犯人は確かにハイド氏であったというのだが、その姿はこつ然と消え去ってしまっていました。



(クイズ6) ジーキル博士が発明した薬品の調合になくてはならないものとは何でしょう？

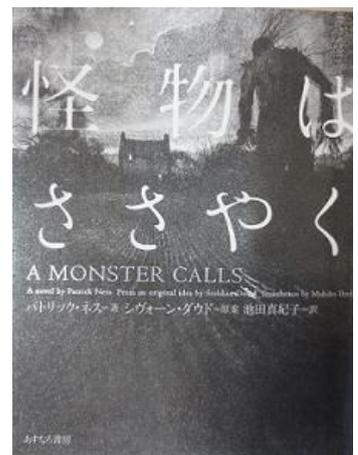
こたえ：( )

## 「怪物はささやく」

読

パトリック・ネス：著 あすなろ書房

少年コナーは病気の母親と二人暮らし。コナーはある夜から、家の裏にあるイチイの木の形をした怪物の悪夢を見るようになります。怪物は、コナーに三つの物語を語り、その後コナーに四つ目の話を語るように言います。それもコナーの真実の物語(それはコナー自身がかつとも恐れている話)を話すことを求めます。怪物が三つの物語を語り終え、コナーは自分の心の底にあるつらく悲しい真実を搾り出すように語っていきます。



(クイズ7) 怪物はなぜ、いつも十二時七分にコナーのところに現れたのでしょうか？

こたえ：( )

## 「第八森の子どもたち」

読

エルス・ベルフロム：作 福音館書店

第二次世界大戦下のオランダでの物語。少女ノーチェは父と一緒にアルネムでの非常に激しい戦闘を逃れて町を逃れて農家「クラブヘク」にたどり着き、戦争が終わるまで暮らすことになりました。戦争下でありながら、気の良い農家のおかみさんやおやじさん、子ども達と自然を満喫しながら生活していきますが、連合軍に追い詰められたドイツ軍は、とうとう「クラブヘク」までやってきて、この家で宿営を始めてしまいました。著者の少女時代の戦争体験をもとに描かれた物語です。



(クイズ8) ノーチェの12歳の誕生日にヤンナおばさんがくれたプレゼントは何でしょうか？

こたえ：( )

## 「ぼくはレース場の持主だ！」

読

パトリシア・ライトソン：作 評論社

他の子とちょっと違う少年アンディは、友達がしているシドニー中の価値のある場所の「持主」となるという想像の遊びについていけません。ところが、あるとき、近くのレース場でびんをひろっていた老人からこのレース場を3ドルで買います。アンディは、レース場の持主になったと思込みますが、それを聞いた友達は、アンディの思込みをなんとか正そうとします。ところが、レース場で働く人たちもこれを面白がって、アンディのことを持主として扱いだしたことから、アンディもすっかりその気になり、とうとう大変な騒ぎになっていくのです。



(クイズ9) アンディが持っていると思っていたレース場を大人たちはどうやって、手放させましたか？

こたえ：( )

## 「不思議を売る男」

読

ジェラルディン・マコックラン：作 偕成社

エイルサは、父が残した古道具屋をきりもりする母と二人で暮らしていますが、母は商売っ気がなく、生活は苦しくなるばかり。ある日、課外レポートのため見学に行った図書館で、奇妙な一人の男の人に出会いました。住むところも仕事もない男は、エイルサの母の店で働くことになりました。無類の本好きの男であるMCCは、暇さえあれば本を読んでいます。お客が来るとその道具にまつわる物語を聞かせていきます。その話を聞いて、商品を買うものもあれば、やめるものもありますが、しかしどの客もMCCの物語の世界に引き込まれてしまいます。



(クイズ10) 不思議を売る男MCCの正体は、どんな人だったでしょう？

こたえ：( )